

1. 1辺の長さが1のひし形OABCにおいて、 $\angle AOC = 120^\circ$ とする。辺ABを2:1に内分する点をPとし、直線BC上に点Qを $\overrightarrow{OP} \perp \overrightarrow{OQ}$ となるようにとる。以下、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とおく。

(1) 三角形OPQの面積を求めよう。 $\overrightarrow{OP} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{a} + \frac{\text{ウ}}{\text{イ}} \vec{b}$ である。

実数  $t$  を用いて  $\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OB} + t\overrightarrow{OC}$  と表されるので、 $\overrightarrow{OQ} = \text{エ} \vec{a} + \vec{b}$  である。

ここで、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ 、 $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ} = \text{キ}$  であることから、 $t = \frac{\text{ク}}{\text{ケ}}$  である。

これらのことから、 $|\overrightarrow{OP}| = \frac{\sqrt{\text{コ}}}{\text{サ}}$ 、 $|\overrightarrow{OQ}| = \frac{\sqrt{\text{シス}}}{\text{セ}}$  である。

よって、三角形OPQの面積  $S_1$  は、 $S_1 = \frac{\text{ソ} \sqrt{\text{タ}}}{\text{チツ}}$  である。

(2) 辺BCを1:3に内分する点をRとし、直線ORと直線PQとの交点をTとする。 $\overrightarrow{OT}$ を $\vec{a}$ と $\vec{b}$ を用いて表し、三角形OPQと三角形PRTの面積比を求めよう。

Tは直線OR上の点であり、直線PQ上の点でもあるので、実数  $r$ 、 $s$  を用いて

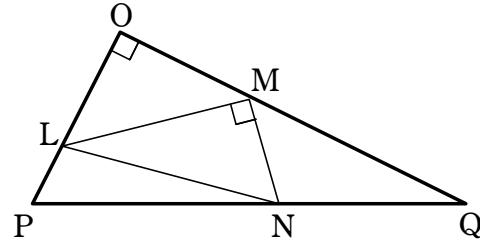
$\overrightarrow{OT} = r\overrightarrow{OR} = (1-s)\overrightarrow{OP} + s\overrightarrow{OQ}$  と表すと、 $r = \frac{\text{テ}}{\text{ト}}$ 、 $s = \frac{\text{ナ}}{\text{ニ}}$  となることがわかる。

よって、 $\overrightarrow{OT} = \frac{\text{ヌネ}}{\text{ノハ}} \vec{a} + \frac{\text{ヒ}}{\text{フ}} \vec{b}$  である。

上で求めた  $r$ 、 $s$  の値から、三角形OPQの面積  $S_1$  と、三角形PRTの面積  $S_2$  との比は、

$S_1 : S_2 = \text{ヘホ} : 2$  である。

2.  $OP=1$ ,  $OQ=2$ ,  $\angle POQ=90^\circ$  である三角形  $OPQ$  において、  
 線分  $OP$  を  $2:1$  に内分する点を  $L$ , 線分  $OQ$  を  $a:(1-a)$  に  
 内分する点を  $M$  とする。ただし,  $0 < a < 1$  とする。さらに、  
 線分  $PQ$  上に点  $N$  を  $\angle LMN=90^\circ$  となるようにとる。



(1)  $\overrightarrow{ML}$  と  $|\overrightarrow{ML}|$  は  $a$  を用いて

$$\overrightarrow{ML} = \frac{\text{ア}}{\text{イ}} \vec{p} - \text{ウ} \vec{q}, \quad |\overrightarrow{ML}| = \frac{\text{エ}}{\text{オ}} \sqrt{1 + \text{カ} a^2}$$

と表される。

(2)  $|\overrightarrow{MN}|$  を  $a$  を用いて表そう。まず,  $\overrightarrow{MN}$  は  $a, b$  を用いて

$$\overrightarrow{MN} = (1 - \text{キ}) \vec{p} + (\text{ク} - \text{ケ}) \vec{q}$$

と表される。 $\overrightarrow{ML} \cdot \overrightarrow{MN} = \text{コ}$  であるから,  $b = \frac{1 + \text{サ} a^2}{\text{シ} + \text{ス} a}$  である。

したがって,  $|\overrightarrow{MN}|$  は  $a$  を用いて

$$|\overrightarrow{MN}| = \frac{\text{セ}}{\text{シ} + \text{ス} a} (\text{ソ} - a) \sqrt{1 + \text{タ} a^2} \text{ と表される。}$$

(3) 三角形  $LMN$  と三角形  $QOP$  は相似であるとする。直線  $OQ$  と直線  $LN$  の交点を  
 求めよう。

$$|\overrightarrow{ML}| = \text{チ} |\overrightarrow{MN}| \text{ であるから, } a = \frac{\text{ツ}}{\text{テト}}, \quad b = \frac{\text{ナ}}{\text{ニヌ}} \text{ である。}$$

$s$  を実数とし, 直線  $LN$  上に点  $R$  を  $\overrightarrow{LR} = s \overrightarrow{LN}$  となるようにとる。 $\overrightarrow{OR}$  は  $s$  を用いて

$$\overrightarrow{OR} = \left( \frac{\text{ネ}}{\text{ノ}} - \frac{s}{\text{ハ}} \right) \vec{p} + \frac{\text{ナ}}{\text{ニヌ}} s \vec{q} \text{ と表される。 } s = \frac{\text{ヒ}}{\text{フ}} \text{ のとき,}$$

$R$  は, 直線  $OQ$  上の点でもあるので, 直線  $OQ$  と直線  $LN$  の交点となる。